

民族共和国におけるロシア愛国主義政策の現状分析
—バシコルトスタン共和国を事例に—

北九州市立大学 法学部

政策科学科

指導教員：中井 遼先生

学籍番号：2016421006

氏名：泉 隆博

1 はじめに

1991年12月25日、ミハイル・ゴルバチョフ大統領の辞任により、ソヴィエト社会主義共和国連邦¹は崩壊した。その結果、ソ連を継承したロシア連邦から分離の意志を示す民族共和国²が現れた。そのため、国民を統合するためのアイデンティティが必要となり、ロシア連邦政府は愛国主義をアイデンティティとした。そして、愛国心を高めるツールとして大祖国戦争の記憶を利用することにした。このような政策に対して、分離の意志を持っていた民族共和国はどのような反応を示したのだろうか。本研究では、バシコルトスタン共和国を事例に、大祖国戦争の戦勝記念日における首長のスピーチの分析をおこない、ロシア愛国主義の民族共和国における現状をみた。その結果、スピーチ内で大祖国戦争の記憶による国民統合を意識しているような内容があり、愛国主義による国民統合は民族共和国においても受け入れられていることがわかった。

本稿では、まず初めに、ロシアの愛国主義政策の導入の背景、経緯について述べる。次に民族共和国の連邦憲法上の権限、民族共和国の首長の選出方法である知事任命制度とバシコルトスタン共和国についての説明をおこなう。そして、本研究の目的であるバシコルトスタン共和国を事例に民族共和国での愛国主義政策の現状を分析していく。

本研究の目的は、ロシアの愛国主義を利用した国民統合が民族共和国ではどのような状況になっているのかを分析することである。特に、愛国主義政策の中でも大祖国戦争の記憶に着目する。本研究は、ロシア愛国主義を利用した国民統合を民族共和国の観点から分析している西山(2018)参考にし、同研究とは異なる事例でのロシア愛国主義の現状の分析をおこなう。そして、本研究の意義は、ロシア人とその他の民族との構成比の割合に近い民族共和国の愛国主義による国民統合の現状の分析であるという点にある。西山(2018)では、タタール人が多数派³であるタタールスタン共和国を事例としたが、本研究では、ロシア人とその他の民族との構成比に近い⁴バシコルトスタン共和国を事例とした。また、本研究では、プーチン政権下で愛国心を高めるためのツールになっている大祖国戦争の記憶が、バシコルトスタン共和国において、どのように利用されているのかを分析した。この点においても本研究の意義であると考ええる。

本研究の分析する手法として、大祖国戦争の戦勝記念日のバシコルトスタン共和国首長のスピーチ・インタビューに着目し、大祖国戦争の記憶による国民統合に対する共和国政府の反応をみる。本研究では、スピーチ・インタビューについては、1992年にバシコルトスタン共和国政府によって設立された通信社である「**Башинформ**」の記事を参考にする⁵。次に、本研究における事例であるバシコルトスタン共和国を選んだ理由は2つある。1つ

1 以後、ソ連と称す。

2 本稿第3章ロシア連邦と民族共和国で民族共和国について説明する。

3 西山(2018)によるとタタール人52.9%、ロシア人39.5%である。

4 西山(2018)によるとバシキール人29.8%、ロシア人36.3%、タタール人24.1%である。

5 「**Башинформ**」の記事はロシア語であるため、検索エンジンであるGoogleの機能の一つであるGoogle翻訳を利用し、ロシア語から英語に翻訳をおこない、記事の内容を確認した。

目は、民族構成比が均等であること。西山(2018)では、ロシア連邦国内では少数派のタタール人が多数派のタタールスタン共和国とは異なる状況である民族共和国を分析することで様々な分析結果を得られるのではないかと考えられたからである。2つ目は、タタールスタン共和国同様、ソ連崩壊後のロシア連邦政府との交渉過程において、バシコルトスタン共和国の権利の拡大のための発言、行動がみられるためである。また、交渉の結果、連邦政府から多くの権限の譲歩を受けているからである。

2. 先行文献とその問題点

本研究の問題意識を踏まえて、先行研究をみていく。まず初めに、Valerie Sperlingの研究である。Sperling(2003)は、ロシアの愛国主義は、軍隊の偉業を称える「軍事愛国主義」であり、愛国心を鼓舞し、国内統合をおこなっていると指摘している。また、愛国主義の文化的シンボルとして「大祖国戦争」を利用し、愛国主義を高めるために利用されていると主張している。次に、Elizabeth A. Wood 氏の研究である。Wood(2011)は、「大祖国戦争」は、ロシアの歴史の連続性とロシア国民の団結を改めて想起させるために利用されていると指摘し、また、プーチンが愛国主義の文化的シンボルである「大祖国戦争」を国民統合に利用するだけでなく、自らの神聖化に利用していると主張している。そして、本研究のテーマの中心的となる先行研究なる西山(2018)の研究である。西山(2018)は、ロシアの愛国主義による国民統合の現状を分析した。この先行研究は、その他の先行研究では、あまり触れられてこなかった地方や民族共和国、退役軍人など様々なアクターの視点から分析している点に特徴がある。特にタタールスタン共和国を事例とした民族共和国レベルの分析に関しては、ソ連崩壊時に分離志向があった民族共和国において連邦政府主導の愛国主義による国民統合が成功しているのかを民族共和国、市民レベルで検証し、国民統合が成功していることを主張している。

以上の先行研究に関する若干の問題点であるが、ロシアの愛国主義は国民統合に利用されているとの指摘する研究はあるが、愛国主義を利用した国民統合の現状を分析する研究が少ない点である。

3. ロシア愛国主義と国民統合

3-1. ソ連崩壊と国民統合

ソ連の崩壊に伴い、政治体制の確立や経済体制の移行が急がれたと同時に国民を統合するためのアイデンティティの再構築が喫緊の課題であった。ロシア国内では、一部の民族共和国によるロシア連邦からの分離運動、権限拡大のための要求が高まっており、チェチェン共和国とロシア連邦政府との対立からチェチェン紛争が生じていた。ソ連時代、国内の異なる民族を「共産主義」というイデオロギーで統合していたのだが、ソ連の崩壊により、「共産主義」による統合は困難を極めた。そのため、「共産主義」とは別の国民を統合するアイデンティティの構築が必要であった。

3-2. エリツィン政権の政策

「愛国主義」に最初に着目したのは、ロシア連邦初代大統領であるボリス・エリツィンである。エリツィンは、国民統合のための「愛国主義」ではなく、別の理由から着目した。エリツィン政権が着目するきっかけとなったのは、1993年の議会選挙である。この年の選挙では、共産党やロシア自由民主党などの野党が躍進した。「アメリカの社会学的調査によれば、ソ連崩壊を「悪かった」「どちらかと言えば悪かった」とした者は、1993年には69%であったが、1995年には77%へと上昇しており、国民の愛国心の高揚も野党躍進に関係していた⁶。国民の愛国心の高揚の背景には、体制転換による経済的苦境やNATOの東方拡大が関係している。このように、国内の勢力が愛国心を掲げるようになるとエリツィン政権も愛国心を重視するようになった。ソ連崩壊時から「ロシアとは何か」という議論がなされていた。その議論の過程において、ソヴィエト体制を作り出したロシア革命以前の帝政ロシアとの歴史的連続性を求める視点は、当然のことながら広く見られた⁷。この視点はエリツィン政権でも帝政ロシアと新生ロシアの連続性を強調した。そのため、ロシアのシンボルとして、三色旗を国旗とする大統領令、双頭の鷲を国章とする大統領令、「愛国歌」⁸を国家とする大統領令を出し、帝政ロシアのシンボルを復活させている。一方、ソヴィエト期の偉業である称えるための「軍事栄光の日に関する連邦法」の法制化も進められた。この連邦法では、5月9日の戦勝記念日が加えられた。このようにして、エリツィン政権では、野党に対抗する必要性から愛国心をシンボルとしたのである。

3-3. プーチン政権の政策

「愛国主義」が国民統合にとって重要視されるようになったのは、第2代ロシア連邦大統領ウラジーミル・プーチンの時である。プーチン政権時では、プーチンに刺激され、「2001年から2005年までのロシア連邦国民の愛国心教育に関する国家プログラム⁹」がロシア連邦政府から承認された。このプログラムの採択された背景について、このプログラムの前文¹⁰に記されている。プーチン政権が、愛国主義による国民統合を進めた理由としては、①ロシアでは、少数派のナショナリズムが高揚しただけでなく、多数派自身もアイデンティティの危機の状態にあったためである¹¹。②ロシアは多民族国家であり、ある

⁶ 西山 (2018) p.35

⁷ 同上 p.38

⁸ 帝政ロシアの作曲家であるミハイル・グリンカの曲である。

⁹ このプログラムでは①世界におけるロシアの役割や歴史的価値観に基づいた愛国心の促進②国益の守護者たる国民の育成③愛国心を高揚させる効果的かつ機能的な国家システムの構築を目標に掲げた。本研究での愛国主義による国民統合はこのプログラムにもとづいたものである。

¹⁰ このプログラムが採択された背景には、社会的亀裂や精神的な価値喪失が悪影響を与え、教育や文化政策が疎かになっているという認識があった。エゴイズムや個人主義が広まり、国家を軽んじる風潮も指摘された。そのような状況を打破するために、精神的紐帯として愛国心の重要性が強調された。

¹¹ 西山 (2018) p.10

特定民族の伝統文化に依拠する国民統合は全ての民族に受け入れられないことである。また、プーチン自身主義による国民統合の重要性に関して次のように述べている。

{愛国心という} 言葉は、大多数のロシア国民にとって、本来、完全に肯定的な意味をもつ。これは、自分たちの祖国とその歴史、偉業を誇りとする感情だ。これは、自分の国をより美しく、より豊かに、より強固に、そしてより幸福にしたいという欲求だ。……これは国民の勇気と不屈さ、力の源泉である。われわれは民族の誇りや尊厳と結びついた愛国心を失い、偉業を成し遂げる能力を持つ国民としての自己を喪失しつつある¹²。

また、「ロシアの誇りとすべき偉業」として、大祖国戦争が愛国心を高めるためのツールとして利用された。スターリンの号令の下でのソヴィエト人民がナチス・ドイツと闘った「大祖国戦争¹³」の記憶は、国威発揚のための不可侵の神聖な物語¹⁴として大祖国戦争はプーチン政権で位置づけられている。

このように、ソ連崩壊後のナショナル・アイデンティティとして、愛国主義が利用されるようになった。また、多民族国家であるロシアを統合するためにも利用されるようになった。そして、愛国心を高めるためのツールとして、大祖国戦争の記憶が利用されるようになった。また、プーチンは、歴史教育にも力を入れる。理由としては、国民意識や愛国主義を育むためだ。プーチンは、「祖国に尊厳を抱く教育の必要性」を訴え、愛国心を高めるための教育の重要性を主張した。そして、プーチンの政治方針やソヴィエト期の偉業に関して批判的な教科書は次第に排除されていった。特に、大祖国戦争の勝利やスターリンの指導力を強調し、国民意識の改革を図ろうとした。

4. ロシア連邦と民族共和国

4-1. 民族共和国と知事任命制度

現在、ロシア連邦には 22 の民族共和国がある。共和国は、ロシア人以外の民族が郷土としている地域に設置されている。また、独自の国土や公用語、憲法を持つことも可能である。このことは、ロシア国内のその他の州とは異なっている。しかし、対外的な主権は保持しておらず、主権国家とは別である。

民族共和国とロシア連邦政府の権限であるが、ロシア連邦憲法では表 1 のように連邦権限¹⁵と共管権限¹⁶の 2 つに権限が分けられる。残余権は、各共和国政府に与えられてい

¹² 西山 (2018) p.14

¹³ 第 2 次世界大戦において 1941 年 6 月 22 日～1945 年 5 月 9 日までのソ連とナチス・ドイツ、周辺国との戦いのことである。

¹⁴ 西山 (2018) p.50

¹⁵ 連邦政府が単独で法律を定められる権限のこと。ロシア憲法第 71 条で定められている。

¹⁶ 構成主体が独自に法を定められる権限のこと。ロシア憲法第 72 条で定められている。

る。また、共管権限に関してはロシア憲法第 76 条により、連邦法と共和国政府の法が矛盾する場合は連邦法を優越することになっている。このように連邦と共和国政府との権限を明確にしているのだが、教育、天然資源、社会保障などが共管権限となっており、連邦政府と共和国政府で対立しやすい構造になっている。

連邦権限	共管権限
連邦憲法と連邦法の制定および修正、人権、公民権や国籍、少数民族の権利の保護、国土管理、連邦政府関連組織の設立、連邦資産の管用、連邦権に関わる行政、同家レベルでの政策基盤の構築、国内市場の形成、連邦予算編成、通関、通貨発行、中央銀行の設置、エネルギーシステムの構築、核開発、国内輸送、通信インフラ、外交政策、国防、兵器の製造・販売、基本法典、恩赦、天候の測定、度量衡、地形の測定	法の整合性、人権や自由の保護、少数民族の保護、土地や天然資源の所有に関連する事項、環境保護、文化、国家財産の所有権規定、教育スポーツ、社会保防、災害疾病対策、税原則と徴収、裁判官や検察官などの任命、構成主体による対外経済関係に関する事項

表 1. 連邦権限と共管権限
長谷（2006）を参考に作成

民族共和国の首長の選定方法であるが、知事任命制度がとられている。制度の概要であるが、大統領が地方議会に候補者を推薦し、その候補者に「知事権限を付与する」という形である。任命手続きとしては、候補者は大統領と地方政府が協議して決められ、14 日以内に審議し、議会の過半数の決定により任命が決まる。万が一、地方議会が候補者を拒否した場合は、再度協議するか、候補者を同じもしくは新たな候補者を提示するか、首長代理を置くか、大統領が議会を解散することができる。また、2 か月後に同じプロセスをおこなうかどうかを決定する。解任は地方議会を通さず、大統領自身がおこなえる。解任又は再任に関しては、①大統領府作成基準、②任命回数及び年齢、③選挙実績が考慮される。

知事任命制度は、2004 年 12 月 3 日に下院を、12 月 4 日に上院を通過し、12 月 11 日にプーチン大統領が署名して導入されることになった。それ以前は、民族共和国の住民による直接選挙によって首長が選ばれていた。しかし、2003 年の北オセチア共和国で発生したベスラン事件¹⁷を受けて導入された。この事件を受けてプーチン大統領は、テロリズムと戦うためには、国の執行権力のシステムの統一が必要であるとの認識を示したことからこの制度が導入されることになった。

¹⁷ 2003 年に北オセチア共和国で発生した学校占拠テロ事件である。

4-2. バシコルトスタン共和国

バシコルトスタン共和国は、ヨーロッパとアジアの境にあるウラル山脈の南部に位置しており、ヴォルガ連邦管区に所属している。首都はウファであり、主要言語は、バシコルトスタン共和国憲法によると、ロシア語とバシキール語と記されている。主な民族構成は、バシキール人 29.8%，ロシア人 36.3%，タタール人 24.1%¹⁸であり、その他多くの民族が暮らしている。主要な産業は石油産業や化学産業，機械工業などの重化学工業である¹⁹。

バシキール人は、紀元前 1 千年紀前半に南ウラルで形成されたユーラシア大陸の民族グループの中で歴史がある民族グループである。現在の首都であるウファは、1574 年にバシコルトスタン地域の行政の中心となり、17 世紀～20 世紀にかけてロシア人やタタール人などその他多くの民族がこの地域に移住してきた。そして、1919 年にバシキール自治ソヴィエト社会主義共和国が設立され、1992 年にバシコルトスタン共和国と名付けられた。バシコルトスタンという名はバシキール人から名付けられた。大祖国戦争時には、バシコルトスタン共和国から 70 万人近くが前線に動員された²⁰。

4-3. バシコルトスタン共和国と分離独立活動

ソ連崩壊後、ロシア連邦政府と民族共和国との間で複数の権限の委譲交渉がおこなわれ、条約が作られた。その過程においてバシコルトスタン共和国はロシア連邦政府との間で共和国の権限の範囲についての意見の食い違いがあった。特に 92 年連邦条約、93 年憲法、権限分割条約の交渉が多く民族共和国に動きがあった。よって、本節ではこの 3 つの交渉過程について紹介する。

まず初めに 1992 年の連邦条約について紹介しておく。この条約は「条約」という名がついているが、条約によって連邦を形成していくものではなく、連邦政府と共和国政府との間の権限区分を連邦法で定められるという前提のもとその具体的な内容を一連の共和国が共同で行うための共和国間条約である。この条約では、ロシア連邦の領土保全，国会の一体性が強調されている。権限に関しては、連邦権限，共管権限がかなり広く、共和国の単独権限は比較的狭いものであった。しかし、共和国を「主権国家」として条約上で明記された。また、連邦に委ねられた権限以外は行使できるとしていた。この条約はタタールスタン共和国やチェチェン共和国を除く 18 の共和国により仮調印された。

バシコルトスタン共和国のモルタザ・ラヒモフ大統領²¹は、この条約は共和国に与えられる権利が少ないことを理由に代表団の交渉次第で満足が得られる条件が得られるまでは調印しないと声明した。結局、調印式の直前にロシア連邦の指導部が特別の譲歩を見せ、

¹⁸ 西山 (2018) p.307

¹⁹ О республике Официальный портал Республики Башкортостан (About the Republic Official portal of the Republic of Bashkortostan)

²⁰ Акулова Гульфия (2019) *Башинформ*, Мау 9

²¹ 2011 年以降、大統領から首長に呼び名が変更されている。

バシコルトスタン共和国の要求を大幅に受け入れる「付録」を連邦条約に添付することになった。譲歩の内容としては、「バシコルトスタン国家主権宣言に立脚する」、「ロシア連邦の管轄する以外の国際関係・対外経済関係の自主的な主体である」、「税制・司法・検察システムの自主性の担保」などである。

次に1993年の憲法である。この憲法は、現行のロシア連邦憲法である。この憲法では、連邦条約で定められた共和国の権限を縮小する内容が含まれていたために各共和国政府から批判の声が上がった。例えば、各共和国の「主権」は削除され、各共和国独自の市民権設定も削除された。バシコルトスタン共和国では、1993年の憲法の議論において自らの権限や地位に関わる発言があった。

たとえば、バシコルトスタン共和国のガビトフは次のように述べている。憲法草案は連邦条約を踏まえていない。連邦条約の意義は異なる権限区分にとどまるものではない。その主たる意味は、ロシア連邦の条約的性格を認めた点にある。連邦条約が内部共和国の主権宣言を認め、共和国を主権国家とした点が重要である。条約は共和国の同意なしには変更・増補することができず、条約こそが第1次的である²²。

「ラヒモフは、大統領も政府も連邦条約を真剣に受けとめていないと批判し、徴税権を共和国のみに一元化する一連邦には定率の納付金のみとする一ように要求した」²³。そして、ロシア連邦の帰属を条約上対等にしてほしいとのことから自発的に加盟するとは明確にしていない。

最後に権限分割条約である。1994年～1998年の間に連邦政府と共和国政府の間で結ばれた権限分割条約は、総論部にあたる「条約」と条約の細部にあたる「付属規定」によって構成されている。権限分割条約は、連邦政府の連邦権限や連邦政府と共和国政府の共管権限のうち、当該共和国の権限に委譲する事項を定め、また、共管権限について、どのような手続きでそれを実現していくかを具体的に規定している²⁴。

バシコルトスタン共和国は、本来ならば、連邦政府と共管権限であるいくつかの権限²⁵を専管権限として与えられた。理由としては、今までの連邦構成過程における言動とバシコルトスタン共和国にある天然資源である。連邦政府では、ロシアの再建には、バシコルトスタン共和国の天然資源が欠かせないと考えたのであろう。タタールスタン共和国やサハ共和国なども同様の譲歩がなされたが、どちらも天然資源が豊富である共和国である。

²² 塩川 (2007) p.56

²³ 同上 p.59

²⁴ 中馬 (2007) p.112

²⁵ 単独での国際関係, 対外経済関係の実施と参加, 共和国予算の編成などである。

このような過程を経て、現在のロシア連邦政府と地方政府との関係性が構築されていった。また、現在の知事任命制度の導入の際にもバシコルトスタン共和国は批判している。

5. 資料について

本研究で使用する資料として、2011年～2019年までの大祖国戦争に関する「Башинформ」記事を利用している。本研究は、共和国政府の反応をみることでロシア愛国主義の国民統合の現状を分析する。「Башинформ」はバシコルトスタン共和国政府によって1992年に設立された通信社である。そのためにより共和国政府の意見が反映されている記事であり、本研究における考察の資料として適切である。また、「Башинформ」のHPでは、2011年～2019年までの資料しか確認できなかったため、2011年～2019年までの資料を利用する。

6. バシコルトスタン共和国での分析

6-1. 大祖国戦争戦勝記念日

2019年5月9日、ロシア連邦の首都であるモスクワの赤の広場では、今年で74周年目の大祖国戦争の戦勝パレードが盛大に開かれた。また、モスクワ以外の地方、民族共和国でも大祖国戦争の勝利を祝うパレードや式典が開かれた。しかし、ソ連時代の5月9日は2019年の戦勝記念日と異なっていた。「歴史学者デニス・バビチェンコ氏によれば、ヨシフ・スターリンも、その後ソ連を率いたニキータ・フルシチョフも、大祖国戦争の軍幹部の政治力が増すことを嫌い、幹部や兵士らの貢献にそれほど注意を向けなかったのだという²⁶」。そして、戦勝記念日を国家として祝うようになったのは、レオニード・ブレジネフの時である。しかしながら、ブレジネフ時代の1962年～1982年の間でさえ、節目の年でしかパレードはおこなわれなかったという。ソ連崩壊後、ロシア連邦になってから、パレードが再開したのは、1995年である。現在の規模となったのは2000年代に入ってからである。ロシア連邦の国民にとって5月9日の戦勝記念日は、休日であり、膨大な数のソ連人民が犠牲となりナチス・ドイツに勝利した記憶を思い出す日でもある。そのため、ロシア国内各地で大祖国戦争に関連した式典やイベントがおこなわれている。

6-2. バシコルトスタン共和国での大祖国戦争戦勝記念日

バシコルトスタン共和国においても大祖国戦争戦勝記念日に関する様々な式典やイベントがおこなわれている。この日は休日であり、毎年多くの住民が式典やイベントに参加している。バシコルトスタン共和国では、大祖国戦争戦勝記念日の式典に共和国政府の予算が充てられている。共和国政府が主催しているイベント以外にも「不滅の連隊²⁷」が住民

²⁶ オレグ エゴロフ RUSSIAN BEYOND 2017年5月8日

²⁷ 2012年にロシア・トムスクではじまった活動である。5月9日の大祖国戦争戦勝記念日になると大祖国戦争で戦った親族の肖像写真を手に参加者が行進する。この活動はロシア国内外でおこなわれている。

主催で実施されている。この活動は年々参加者を増やしており、老若男女問わず参加している。

2011年は、ルステム・ハミトフ首長が首長になって初めての5月9日の戦勝記念日であった。戦勝記念式典は、バシコルトスタン共和国の首都であるウファ市内の「勝利公園」(Парк Победы/Victory Park)で開催された(図1)。この式典には、首長をはじめ、行政機関のトップや地方議会議員、退役軍人や若者たちが参加し、「永遠の炎」

(Вечному огню/the Eternal Flame)という公園内にあるモニュメントに花を供え、大祖国戦争で戦死者に黙とうが捧げられた。また、ソ連の英雄であるムサ・ガレエフの墓とソ連の英雄アレクサンドル・マトロソフとミニガリ・グバイドゥリンの記念碑、「ウォーク・オブ・フェーム」(Алея Славы/Walk of Fame)にも花が供えられた。この式典後に、ウファ市内の別の公園では大祖国戦争に関する劇がおこなわれ、ダイナモスタジアムでは、戦勝記念日祝福する陸上競技大会がおこなわれた。別の年では、マラソン大会が開催されている。その他にはアマチュアバンドやグループによるフォークソング演奏やダンスが披露されるコンサートが開催され、この日の最後には花火がウファ市内で打ち上げられた。

2018年はハミトフ首長の最後の5月9日の戦勝記念日であった。5月8日にウファ市内のホールで戦勝記念日式典がおこなわれた(図2)。この式典では、ハミトフ首長のスピーチやオーケストラの演奏や若者らによる数々のパフォーマンスが披露された。また、この式典には、退役軍人や大祖国戦争に従事者が招待された。5月9日には、「不滅の連隊」の行進がおこなわれ、大人から子供まで幅広い世代の住民が参加した(図3)。この行進では、参加者たちが、大祖国戦争に従事者や自分自身の祖父母の写真に掲げたほか、第112バシキール騎兵団の団旗やソ連軍旗を持っていた。バシコルトスタン共和国での「不滅の連隊」の行進は、バシコルトスタン共和国では、2014年から始まり、2015年にヴォルガ連邦地区で最大規模のものになり、参加者は学生が主体となっていった²⁸。また、この行進は、首都ウファ市内だけでなく、バシコルトスタン共和国各地でおこなわれている。

「不滅の連隊」の行進以外にも、ウファ市内の映画館では、大祖国戦争に関する映画が無料で公開された²⁹。そして、この年の5月9日の最後にはウファ市内で花火が上がり、この戦勝記念日を締めくくった。

2019年はラディ・ハビロフ首長に代わって初めての5月9日を迎えた。この年は前例のない規模のパレードがおこなわれた(図4)。ウファ市内の通りでは、ロシア連邦軍の士官や士官候補などが行進し、大祖国戦争時に使用されたT-34戦車が走行し、ブラスバンド隊など1300人以上の人たちが行進してパレードを盛り上げた。さらに、大祖国戦争で使用された装備品が展示された。このパレードには、退役軍人や大祖国戦争に従事者が招

²⁸ Набиева Галия (2018) *Башинформ*, Май 7

²⁹ Аралбаева Лейла (2018) *Башинформ*, Май 9

待され³⁰、ハビロフ首長をはじめ、バシコルトスタン共和国議会議長など行政トップが参加した。また、パレード以外では、ウファ市内の劇場で大祖国戦争に関する劇がおこなわれ、映画館では、大祖国戦争関係の映画が上映された。また、不滅の連隊のパレードがおこなわれ、バシコルトスタン共和国全体で 45 万近くの住民が大祖国戦争に従事した方々の写真を掲げてバシコルトスタン各地を行進した。そして、ハビロフ首長は大戦従軍者の家を訪ね、彼らの功績に感謝の意を示し、夜になるとウファ中心部では、記念日を締めくくる花火が打ち上げられた。また、戦勝記念日とはあまり関係ないが、5月9日にハビロフ首長は共和国予算で整備が進められている高速道路の工事現場や体育館、自然公園などを視察している。



図1 2011年 勝利公園 (Парк Победы/Victory Park) での大祖国戦争戦勝記念式典の様子

出典：Рахматуллин Тимур (2011) *Башинформ*, Мау 9



図2 2018年 バシコルトスタン共和国での大祖国戦争戦勝記念日式典の様子

出典：Башинформ (2018a) *Башинформ*, Мау 8

³⁰ Башинформ (2019d) *Башинформ*, Мау 9



図3 2018年 バシコルトスタン共和国での「不滅の連隊」の行進の様子

出典：Башинформ (2018c) *Башинформ*, Мау 9



図4 2019年 バシコルトスタン共和国での大祖国戦争戦勝記念パレードの様子

出典：Башинформ (2019d) *Башинформ*, Мау 9

6-3. スピーチ・インタビューの分析と考察

2011年～2019年までのスピーチ・インタビューを分析していく。本稿では、「Башинформ」の記事を利用したが、2013年、2015年は大祖国戦争戦勝記念日式典でのスピーチ・インタビュー記事が今回に関しては確認できなかった。そのため、2013年、2015年以外の年を対象に検証していく。

2011年の大祖国戦争戦勝記念を祝して発表されたルステム・ハミトフ首長のコメントである。

5月9日は、国民の統一のための日であり、ロシア人にとって誇りである日。私は、私たちの父母や祖父母たちが祖国の防衛のためにおこなってきた行動に対して尊敬している。私たちは、私たちの偉大な祖国で愛するロシアの利益を常に考えている³¹。

ハミトフ首長は大祖国戦争の戦勝記念日を国民の統一のための日であることを述べていた。また、ロシア連邦を「偉大な祖国で愛するロシア」と主張している。

³¹ Башинформ (2011) *Башинформ*, Мау 7

2014年の大祖国戦争戦勝記念日式典でのハミトフ首長のコメントである。

大祖国戦争の戦勝記念日は、国民を団結させ、そして団結を強化させる。私たちにとって誇りの日である。ロシアは、世界の人々に国民の団結の強さ、平和な世界の実現、公平な立場を堅持する能力を示してきた。(中略)

私たちは、キエフでの5月9日の戦勝記念式典を中止した非道な行為に対する多くのウクライナ国民の怒りに同感します。キエフの権力を掌握した民族主義者たちは、無秩序な状況に反対する人々に対して軍隊を送っている。この行為は、平和を希求している国民への戦争行為であるのとみなすことができる³²。

ハミトフ首長はこの年も「大祖国戦争の勝利は、国民を団結させ、そして団結を強化させる」と述べている。また、この年2月にウクライナの首都キエフで反政府デモが発生し、当時のヴィクトル・ヤヌコヴィッチ大統領がロシアに亡命する事態までに事態が深刻化する。このことのキエフでのデモを受けてのことなのか、ハミトフ首長はウクライナに関する発言をしている。彼は、キエフでおこなわれるはずであった大祖国戦争の戦勝記念式典が中止になったこと、キエフでの反政府デモを批判した。

2017年の大祖国戦争戦勝記念日の式典でのハミトフ首長のコメントである。

人類は、1945年以来、約70年間新たな世界大戦を知らない。しかし今日、地球上で様々な紛争が発生している。世界は国際テロリズムによって攻撃されている。そして、宗教の過激主義が発生している。(中略)

これらの脅威によって、情報の乱立、イデオロギーの対立が増加している。その一つの現れが、第二次世界大戦に関する歴史的事実をゆがめ、実際の出来事を捏造し、ファシズムの敗北の対する私たちの決定的な貢献を軽視する試みです。このような試みの標的は、若者であり、国の歴史について深く理解することが重要である³³。

ハミトフ首長は、「大祖国戦争終結から70年経ち、国際的なテロリズムや宗教的な争いが発生している」と述べ、「これらの争いの原因は、大祖国戦争の勝利の事実を捏造し、我々の勝利の貢献を軽視する試みである。」との認識を示し、「若者たちに大祖国戦争の正しい記憶を伝えていくことが大切である。」と主張した。この年の3月に汚職に抗議する反政府デモがモスクワをはじめロシア国内各地で発生した。これに伴い、野党指導者のア

³² Набиева Галия (2014) *Башинформ*, Май 7

³³ Башинформ (2017) *Башинформ*, Май 5

レクセイ・ナワリヌイ氏が逮捕されている。ハミトフ首長は、この反政府デモを受けてこのような内容の発言をしたのではないだろうか。

2018年大祖国戦争戦勝記念を祝して発表されたハミトフ首長のコメントである。

私たちの国の歴史の中で、5月9日はロシアに住む全ての家族にとって聖なる日である。この祝日は、軍事的栄光、愛国心、兵士の勇気と労働力、45年の春に祖国に勝利をもたらした人々の不動のものである³⁴。

ハミトフ首長は、「5月9日をロシアに住む全ての家族にとって聖なる日である」と述べている。この年のコメントはハミトフ首長にとって首長として最後のものではあった。

2019年はラディ・ハビロフにバシコルトスタン共和国の首長が変わり、初めての大祖国戦争戦勝記念日であった。大祖国戦争で活躍した第112バシキール騎兵団のモニュメントを訪れたときのコメントをみていく。

ドンバス³⁵とバシコルトスタンは1,500 kmの戦線を共有した。これは非常に長いですが、短くもある。私たちは多くの共通点がある。バシコルトスタンの住民にとって、伝説的なバシキール騎兵師団がこの土地でナチスと戦って打ち負かしたことは重要である³⁶。

ハビロフ首長は、「ドンバスとバシコルトスタンはともに戦い、彼らとの多くの共通点がある。」と述べ、ドンバスとバシコルトスタンの戦いを例に挙げ、大祖国戦争は国全体で戦ったことを強調したと思われる。

2012年、2016年のルステム・ハミトフ首長のコメントであるが、大祖国戦争に従事した方々への感謝を述べる内容であった。このような内容は、2012年、2016年以外の年でも述べられている。

以上が本研究での分析した結果である。バシコルトスタン共和国の大祖国戦争の戦勝記念式典では、大祖国戦争の勝利が「国民を団結させる」や「ロシアの誇りの日である」との表現があった。このような結果から、バシコルトスタン共和国ではロシア愛国主義政策が受け入れられているといえる。また、大祖国戦争の記憶と反政府デモ、クリミア情勢と結びつけるような発言があった。

³⁴ Башинформ (2018b) Башинформ, Май 8

³⁵ 現在のウクライナ東部ドネツク州付近

³⁶ Башинформ (2019d) Башинформ, Май 9

7. 最後に

本研究は、ロシア連邦内の民族共和国での愛国主義政策の現状をスピーチやインタビューを通じて分析してきた。また、バシコルトスタン共和国を事例とし、「Башинформ」の記事を分析の対象とした。そのために、「Башинформ」の記事以外の資料では、異なる内容のスピーチやインタビューがなされている可能性がある。また、今回はバシコルトスタン共和国という1つの事例しか調べていない。よって、他の民族共和国では異なる結果になる可能性がある。

しかしながら、本研究での分析結果としては、バシコルトスタン共和国では愛国主義政策が受け入れられており、国民統合に利用されていることが確認できた。スピーチやインタビューでは、大祖国戦争の戦勝記念日は、「国民の統一の日である。」や「ロシアの誇りの日である。」などの表現があった。また、クリミア情勢やロシア国内の反政府デモに関しても戦勝記念式典内で触れられ、大祖国戦争の記憶と結びつけるような主張もみられた。このようなことから大祖国戦争の記憶は、単なる国民を統一するためのツールだけでなく、国内の政治体制の正当化や対外政策を主張するためのツールにもなっているのではないかと思われる。バシコルトスタン共和国においては、式典の内容に関して年々変化しており、式典が実施される日にちも異なっていることがわかった。そして2019年においては、今まで実施されてこなかった大規模なパレードも実施されていることが判明した。

このようなことから、民族共和国では、大祖国戦争の記憶を利用した愛国主義政策が受け入れられていると言える。

8. 参考文献

- ・塩川伸明 (2007) 『ロシアの連邦制と民族問題』 岩波書店
- ・下斗米伸夫 (1997a) 『ロシア現代政治』 東京大学出版会
- ・下斗米伸夫 (1997b) 『エスノ政治—ロシアの共和国問題』 中国・スラブ領域研究合同シンポジウム報告集

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/sympo/533/book1.html>

(最終閲覧日 2019年9月5日)

- ・中馬瑞貴 (2006) 「ロシアの中央・地方関係をめぐる政治過程—権限分割条約の包括的な分析を例に」 『スラブ研究』 No.56 pp.91-125
- ・中馬瑞貴 (2007) 「ロシアの連邦中央とタタルスタン共和国との間の権限分割条約」 『外国の立法』 No.232 pp.111-119
- ・永綱憲悟 (2011) 「プーチンと地方政治—知事任命制度の実際—」 『亜細亜大学国際関係紀要』 No.20 pp.57-120
- ・長谷直哉 (2006) 「ロシア連邦制の構造と特徴—比較連邦論の視点から—」 『スラブ研究』 No.53 pp.267-298
- ・西山美久 (2018) 「ロシアの愛国主義—プーチンが進める国民統合—」 法政大学出版局

- ・ アナスタシア フェドトワ 「諸民族を団結する記憶 日本で「不滅の連隊」運動行われる」 Sputnik 日本 2019年5月7日
<https://jp.sputniknews.com/opinion/201905076226465/>
 (最終閲覧日 2019年12月20日)
- ・ オレグ エゴロフ 「なぜ戦勝記念日にパレードを？」 RUSSIAN BEYOND 2017年5月8日
<https://jp.rbth.com/society/2017/05/08/757264>
 (最終閲覧日 2020年1月8日)
- ・ BBC NEWS 2017 “Russia protests: Opposition leader Navalny and hundreds of others held” *BBC NEWS*, March 27th
<https://www.bbc.com/news/world-europe-39398305>
 (最終閲覧日 2019年12月20日)
- ・ Sperling, Valerie (2003) "The last refuge of a scoundrel: patriotism, militarism and the Russian national idea" *Nationals and Nationalism*, Vol.9, No2, pp.235-253
- ・ Wood, Elizabeth A. (2011) "Performing Memory: Vladimir Putin and the Celebration of WWII in Russia" *The Soviet and Post-Soviet Review*, 38, pp.172-200
- ・ Акулова Гульфия (2019) «В Башкирии День Победы встречают 38101 ветеранов и тружеников тыла“38101 veterans and home front workers greet Victory Day in Bashkiria”» *Башинформ*, May 9
http://www.bashinform.ru/news/1306307-v-bashkirii-den-pobedy-vstrechayut-38101-veteranov-i-truzhenikov-tyla/?sphrase_id=11183093
 (最終閲覧日 2019年12月13日)
- ・ Аралбаева Лейла (2018) «В Уфе состоится показ фильмов киностудии «Башкортостан», посвященный 73-й годовщине Великой Победы“А screening of the films of the Bashkortostan film studio dedicated to the 73rd anniversary of the Great Victory will take place in Ufa”» *Башинформ*, May 9
http://www.bashinform.ru/news/1155095-v-ufe-sostoitsya-pokaz-filmov-kinostudii-bashkortostan-posvyashchenny-73-y-godovshchine-velikoy-pob/?sphrase_id=11201992
 (最終閲覧日 2019年12月21日)
- ・ Валева Розалия (2019) «Жители Чишмов приняли участие в торжественном митинге, посвященном Дню ПобедыЧИШМЫ“Chishmov residents took part in a solemn meeting dedicated to Victory Day”» *Башинформ*, May 9
http://www.bashinform.ru/news/1306411-zhiteli-chishmov-prinyali-uchastie-v-torzhestvennom-mitinge-posvyashchennom-dnyu-pobedy/?sphrase_id=11141219
 (最終閲覧日 2019年12月13日)

- Бахшиева Галина(2019) «Радий Хабиров назвал беспрецедентным число участников «Бессмертного полка» в Башкирии“Radiy Khabirov called the unprecedented number of participants in the Immortal Regiment in Bashkiria” »*Башинформ* ,May 10
http://www.bashinform.ru/news/1306673-radiy-khabirov-nazval-bespretsedentnym-chislo-uchastnikov-bessmertnogo-polka-v-bashkirii-/?sphrase_id=11132062
 (最終閲覧日 2019 年 10 月 15 日)
- Башинформ (2011) «Рустэм Хамитов: нет торжества выше, чем День Победы “Rustem Khamitov: there is no celebration higher than Victory Day” »*Башинформ* , May 7
http://www.bashinform.ru/news/362035-rustem-khamitov-net-torzhestva-vyshe-chem-den-pobedy/?sphrase_id=11147737
 (最終閲覧日 2019 年 10 月 30 日)
- Башинформ (2017) «Рустэм Хамитов: «9 мая для всех россиян – день национального единения и гордости» “Rustem Khamitov: “May 9 is a day of national unity and pride for all Russians”»*Башинформ* , May 5
http://www.bashinform.ru/news/995784-rustem-khamitov-9-maya-dlya-vsekh-rossiyan-den-natsionalnogo-edineniya-i-gordosti/?sphrase_id=11173568
 (最終閲覧日 12 月 2 日)
- Башинформ (2018a) «Рустэм Хамитов: «Стойкость и мужество защитников Родины в годы войны навсегда останутся в памяти людей»“Rustem Khamitov: “Strength and courage of the defenders of the motherland during the war will forever remain in the memory of people””»*Башинформ* , May 8
http://www.bashinform.ru/news/1154921-rustem-khamitov-stoykost-i-muzhestvo-zashchitnikov-rodiny-v-gody-voyny-navsegda-ostanutsya-v-pamyati/?sphrase_id=11146157
 (最終閲覧日 2019 年 10 月 28 日)
- Башинформ (2018b) «Рустэм Хамитов поздравил ветеранов с Днем Победы“Rustem Khamitov congratulated veterans on Victory Day”»*Башинформ* ,May 8
http://www.bashinform.ru/news/1154904-rustem-khamitov-pozdravil-veteranov-s-dnem-pobedy/?sphrase_id=11146157
 (最終閲覧日 2019 年 10 月 28 日)
- Башинформ (2018c) «Рустэм Хамитов прошёл в колонне «Бессмертного полка»“Rustem Khamitov marched in the Immortal Regiment column” »*Башинформ* ,May 9

http://www.bashinform.ru/news/1155117-rustem-khamitov-proshyel-v-kolonne-bessmertnogo-polka/?sphrase_id=11146157

(最終閲覧日 2019 年 10 月 28 日)

・ Башинформ (2019d) «День Победы Уфа встретила беспрецедентным по масштабу праздничным парадом“ Ufa celebrated Victory Day with an unprecedented scale parade”» *Башинформ*, May 9

http://www.bashinform.ru/news/1306381-den-pobedy-ufa-vstretila-bespretседentnym-po-masshtabu-prazdnichnym-paradom/?sphrase_id=11131905

(最終閲覧日 2019 年 10 月 23 日)

・ Башинформ (2019e) «Радий Хабиров почтил память генерал-майора Шаймуратова в местах его последних сражений“Rادی Khabirov honored the memory of Major General Shaimuratov in the places of his last battles”» *Башинформ*, May 11

http://www.bashinform.ru/news/1306852-radiy-khabirov-pochtil-pamyat-generalamayora-shaymuratova-v-mestakh-ego-poslednikh-srazheniy-/?sphrase_id=11131905

(最終閲覧日 2019 年 10 月 15 日)

・ Гиззатуллин Азат (2019) «В Башкирии продолжается строительство автодороги Мраково – Старосубхангулово“Construction of the Mrakovo-Starosubkhangulovo highway continues in Bashkiria”» *Башинформ*, May 9

http://www.bashinform.ru/news/1306565-v-bashkirii-prodolzhaetsya-stroitelstvo-avtodorogi-mrakovo-subkhangulovo/?sphrase_id=11141144

(最終閲覧日 2019 年 10 月 23 日)

・ Гиззатуллин Азат (2019) «В башкирской гимназии села Мраково построят теплый переход“A warm transition will be built in the Bashkir gymnasium of the village of Mrakovo”» *Башинформ*, May 9

http://www.bashinform.ru/news/1306526-v-bashkirskoy-gimnazii-sela-mrakovo-postroyat-teplyu-perekhod/?sphrase_id=11141144

(最終閲覧日 2019 年 10 月 23 日)

・ Гиззатуллин Азат (2019) «Радий Хабиров посетил природный парк «Мурадымовское ущелье»“Rادی Khabirov visited the Muradymov Gorge Natural Park”» *Башинформ*, May 9

http://www.bashinform.ru/news/1306592-radiy-khabirov-posetil-prirodnyy-park-muradymovskoe-ushchele/?sphrase_id=11141219

(最終閲覧日 2019 年 10 月 23 日)

• Гиззатуллин Азат (2019) «Радий Хабилов в Мраково встретился с ветераном войны Хасаном Мазитовым“Radiy Khabirov in Mrakovo met with war veteran Hasan Mazitov”» *Башинформ*, May 9

http://www.bashinform.ru/news/1306580-radiy-khabirov-v-mrakovo-vstretilsya-s-veteranom-vov-khasanom-mazitovym-/?sphrase_id=11141219

(最終閲覧日 2019 年 10 月 23 日)

• Набиева Галия (2014) «Рустэм Хамитов: «У нашего народа нет события значительнее, нет торжества выше, чем День Победы»“Rustem Khamitov: “Our people do not have a significant event, there is no celebration higher than Victory Day””» *Башинформ*, May 7

http://www.bashinform.ru/news/628216-rustem-khamitov-u-nashego-naroda-net-sobytiya-znachitelnee-net-torzhestva-vyshe-chem-den-pobedy/?sphrase_id=11173750

(最終閲覧日 2019 年 12 月 3 日)

• Набиева Галия (2018) «Жители Башкирии в рядах «Бессмертного полка» идут по главным улицам своих городов и поселков“Residents of Bashkiria in the ranks of the "Immortal Regiment" walk along the main streets of their cities and towns”» *Башинформ*, May 9

http://www.bashinform.ru/news/1154614-zhiteli-bashkirii-v-ryadakh-bessmertnogo-polka-idut-po-glavnym-ulitsam-svoikh-gorodov-i-poselkov/?sphrase_id=11146157

(最終閲覧日 2019 年 10 月 28 日)

• О республике Официальный портал Республики Башкортостан (About the Republic Official portal of the Republic of Bashkortostan)

<https://www.bashkortostan.ru/republic/history/>

(最終閲覧日 2019 年 12 月 13 日)

• Рахматуллин Тимур (2011) «Президент Башкортостана возложил цветы к Вечному огню в уфимском парке Победы“President of Bashkortostan laid flowers at the Eternal Flame in Ufa Victory Park”» *Башинформ*, May 9

http://www.bashinform.ru/news/362075-prezident-bashkortostana-vozlozhil-tsvety-k-vechnomu-ognyu-v-ufimskom-parke-pobedy/?sphrase_id=11148046

(最終閲覧日 2019 年 10 月 30 日)

• Рахимкулов Евгений (2011) «Уфа отмечает День Победы“Ufa celebrates Victory Day”» *Башинформ*, May 9

http://www.bashinform.ru/news/362055-ufa-otmechaet-den-pobedy/?sphrase_id=11148046

(最終閲覧日 2019 年 10 月 30 日)

• Слезин Дмитрий (2012) «Президент Башкортостана Рустэм Хамитов поздравил ветеранов с Праздником Великой Победы“President of Bashkortostan Rustem Khamitov congratulates veterans on the Great Victory Day”»*Башинформ*, May 9
http://www.bashinform.ru/news/458995-prezident-bashkortostana-rustem-khamitov-pozdravil-veteranov-s-prazdnikom-velikoy-pobedy/?sphrase_id=11173007

(最終閲覧日 2019 年 12 月 3 日)

• Смирнов Александр (2016) «Рустэм Хамитов: «День Победы вдохновляет на новые большие дела на благо Отечества»“Rustem Khamitov: “Victory Day inspires new big things for the good of the Fatherland””»*Башинформ*, May 6
http://www.bashinform.ru/news/848241-rustem-khamitov-den-pobedy-vdokhnovlyayet-na-novye-bolshie-dela-na-blago-otechestva/?sphrase_id=11173568

(最終閲覧日 12 月 2 日)